安全なくらしを守る

太田市の消ぼう



太田市消ぼう本部

○ 太田市の消ぼうのしくみ

太田市ではとなりの大泉町ときょう同で助け合いながら消ぼうの仕事をしています。
これを「太田市消ぼう本部」といっています。

毎日２４時間こうたいで、いつでも出動できるようにそなえています。

○ 消ぼうの仕事

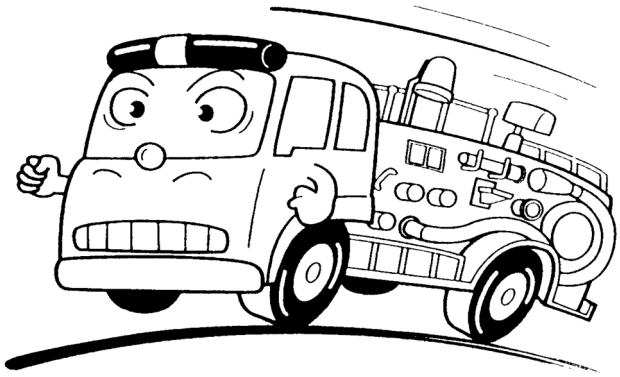
町の人びとを火事などの「さいがい」から守り、みんなが安心してくらせるようにしています。

≪主な仕事≫

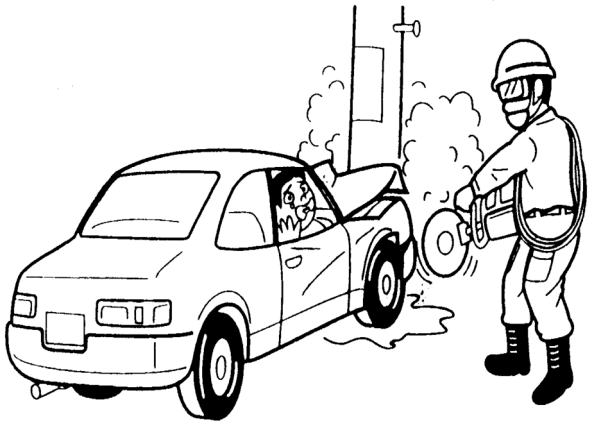
① 火事の予防（かじ　よぼう）
（みんなが火事をおこさないようにする）



② 消火活動（しょうか　かつどう）
（おきた火事を早くかけつけて消す）



③ 救助活動（きゅうじょ　かつどう）
（人をあぶないところから安全なところに助け出す）



④ 救急活動（きゅうきゅうかつどう）
（ケガ人や病人を手当して早く病院へはこぶ）

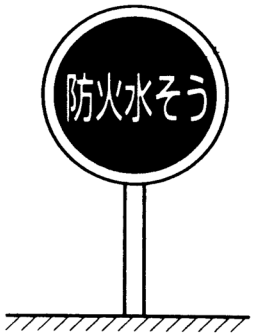


太田市消ぼう本部の管内りゃく図



○ 「消ぼう水り」のひょうしき

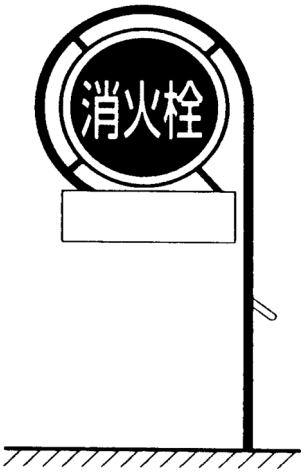
町のなかや学校のまわり、家の近くにもたくさん立っています。



ぼう火水そう



消ぼう水り



消火せん

○ 消ぼうのしせつ

太田市消ぼう本部、1つの「消ぼう本部」と4つの「消ぼうしょ」４つの「分しょ」１つの「しゅっちょうじょ」のしせつがあります。

太田市には、火事のときに消ぼう自動車に水をほきゅうするしせつもたくさんできています。

これを「消ぼう水り」とよんでいます。

⑴消火せん（水道かんの水を取り出すしせつ）

⑵ぼう火水そう（地下に水をためておくしせつ）

※学校のプールの水も「消ぼう水り」としてつかうことがあります。

○ 消ぼうのせつび

「消ぼう本部」には、高きのう消ぼうしれいセンターがあり１市1町のかん内ぜんぶの１１９番つうほうが入ってくるようになっています。

すべての「消ぼうしょ」と「分しょ」と「しゅっちょうじょ」には、消ぼう自動車ときゅう急車がはいちされています。



指き車



はしご車



きゅう助工作車



化学車



水そう付ポンプ



太田市消ぼう団車



水そう車



きゅう急車

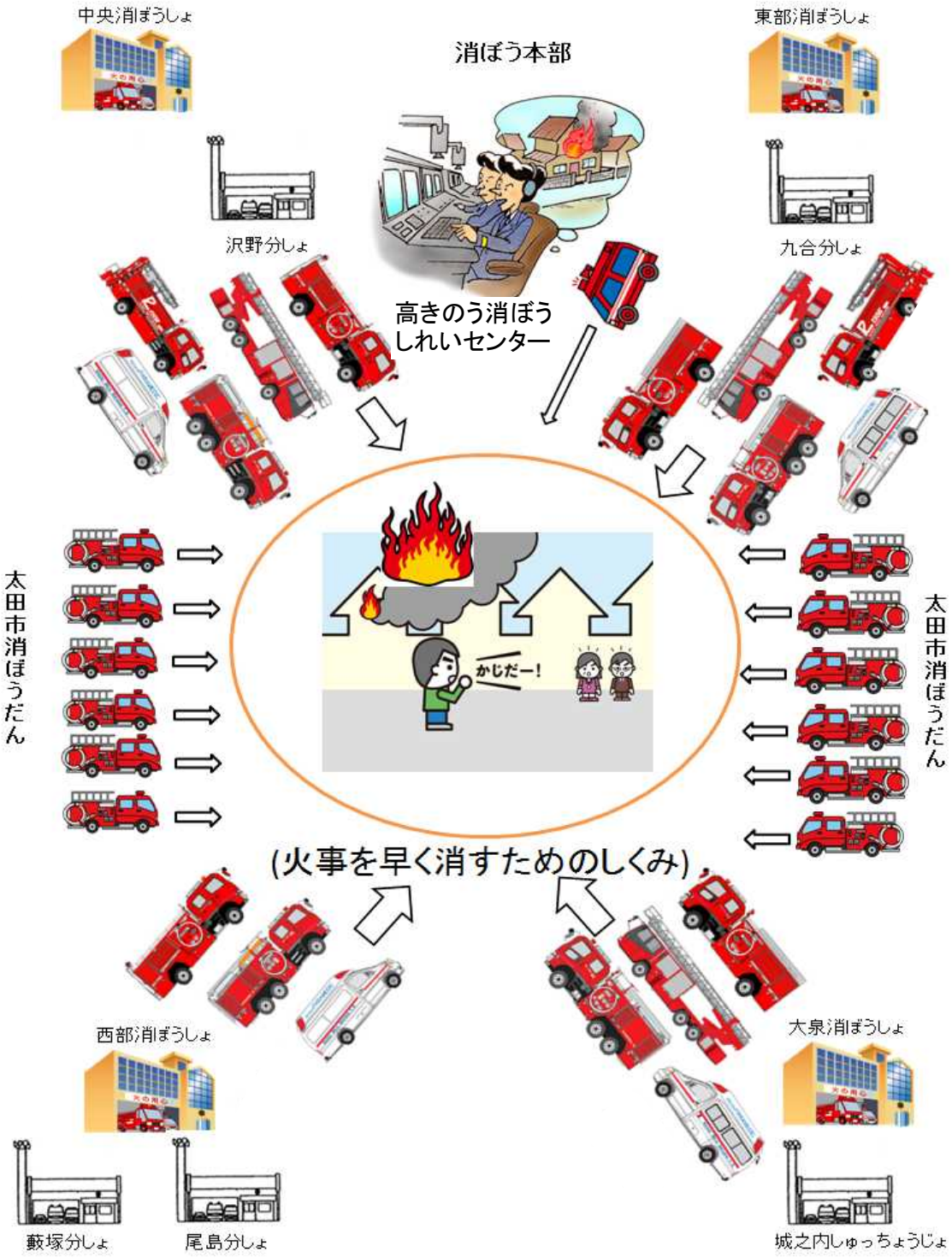


水上バイク

消ぼうしょの車には、すべて「無せん機」がついていて、どの車からでもおたがいに連らくがとれるようになっています。

※学校の中にも、火さいほう知機や消火器、おく内消火せん、ぼう火シャッターなどの「消ぼう用せつび」があります。

［太田市消ぼうのしせつ・せつび］



○ 火事を早く消すためのしくみ

１１９番で火事の知らせをうけると、消ぼう本部の「高きのう消ぼうしれいセンター」から一せい放送で、火事のげん場に一番近い「消ぼうしょ」をすぐに出動させます。

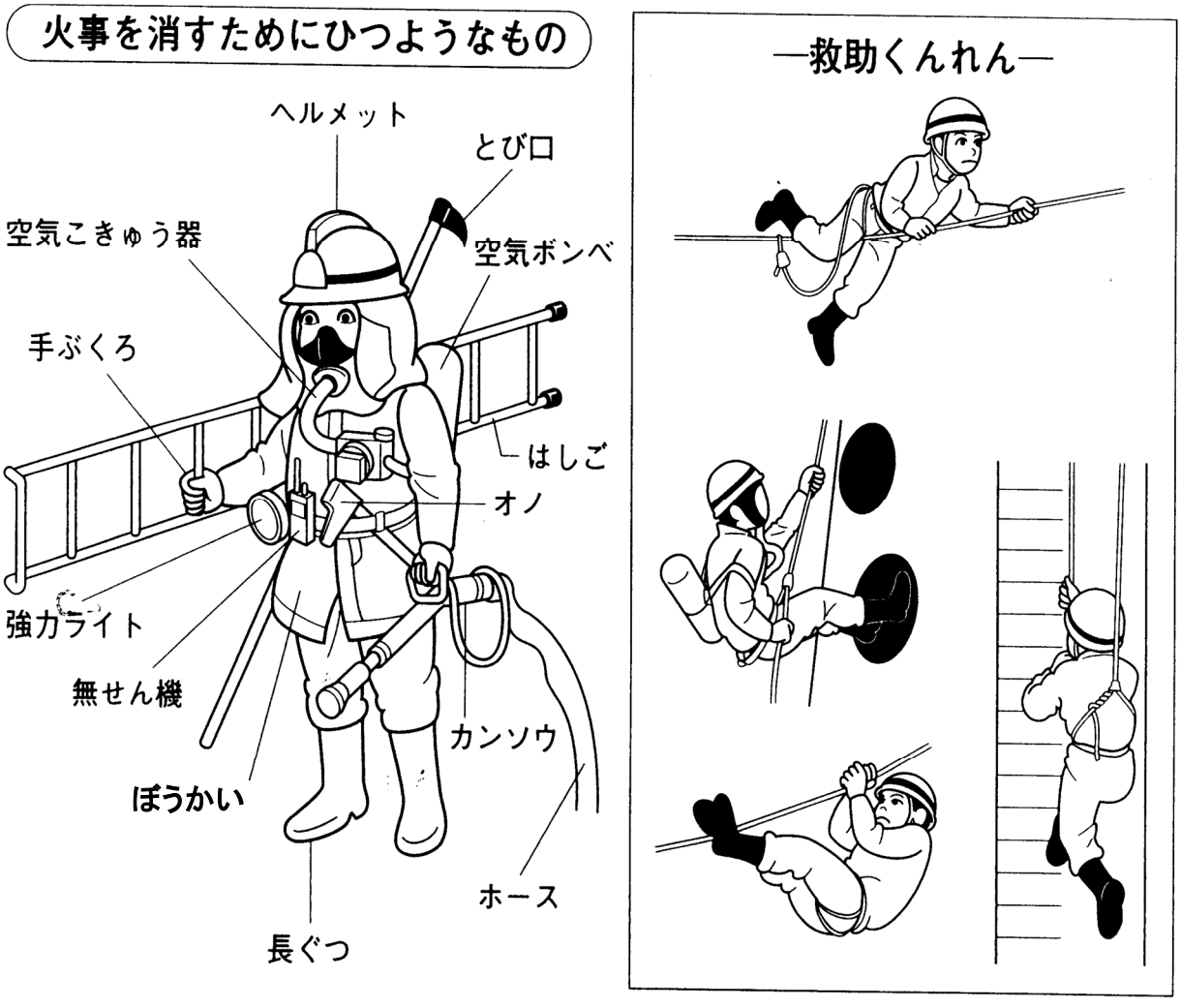
そのまわりの「消ぼうしょ」も「分しょ」も「しゅっちょうじょ」も放送を聞いて、おうえんに行きます。

火事がもっと大きくなりそうなときは、「消ぼうだん」の人たちにもあつまってもらい、みんなで協力しながら、なるべく早く火事を消すようにします。

（太田市には、ふだんは他の仕事をもっている消ぼうだんの人たちがいます。）

○ 火事を早く消すために

毎日くんれんをしたり、地図をしらべて「消ぼう水り」のある場所をおぼえておいたり「火事を消すためにひつようなもの」の手入れをしていざというときにそなえています。



○ 火事をふせぐために

火事はおこさないようにすること「火さい予ぼう」が大切です。消ぼうしょの人たちは、火事を消すだけではなく、どうして火事になったのかも調べます。

そして火事の「原いん」をみんなに知ってもらい、おなじ火事をまたおこさないように注意をしてもらうようにします。

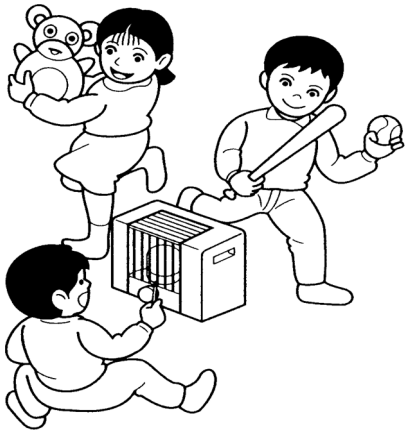
① 学校や会社、病院などへ行って「ぼう火指どう」をする。

② 町に「ぼう火ポスター」をはったり、家一けん一けんに「ぼう火チラシ」をくばったりする。

③ 火事のおこりやすいじきには、消ぼう自動車で町をまわりながら注意をよびかける。

○ 火事をおこさないようにするために

・みんなが気を付けること



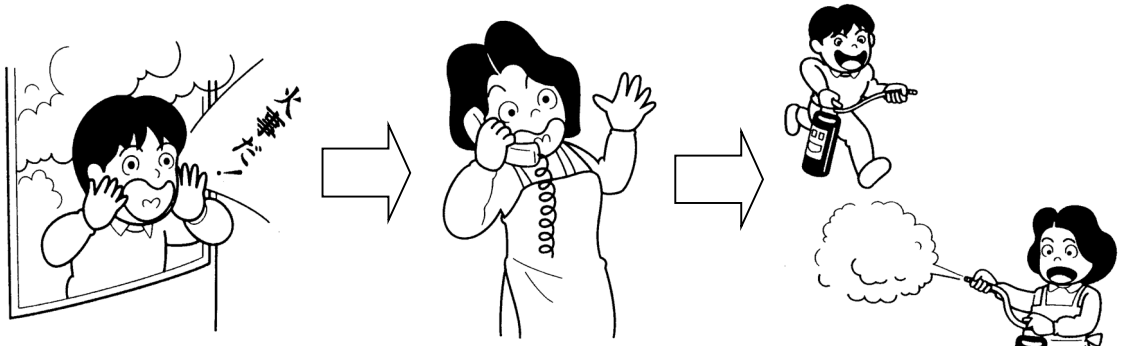
① マッチやライターであそばない。
② 子どもだけで花火やたき火をしない。
③ ストーブのそばであそばない。
④ 小さな子どもが火あそびをしていたら、すぐにやめさせる。

・家の人に気を付けてもらうこと

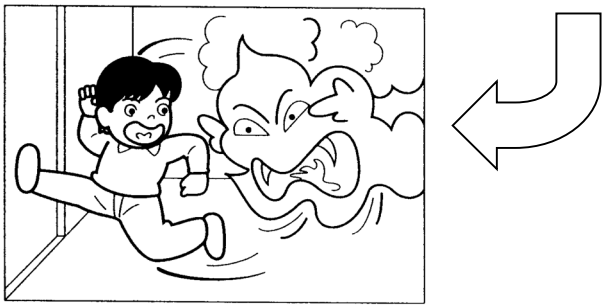
①天ぷらをあげるときは、その場をはなれない。
②たばこのすいがらは、きちんとかたづける。
③家のまわりに、もえやすいものをおかない。



○ もし、火事がおこったら



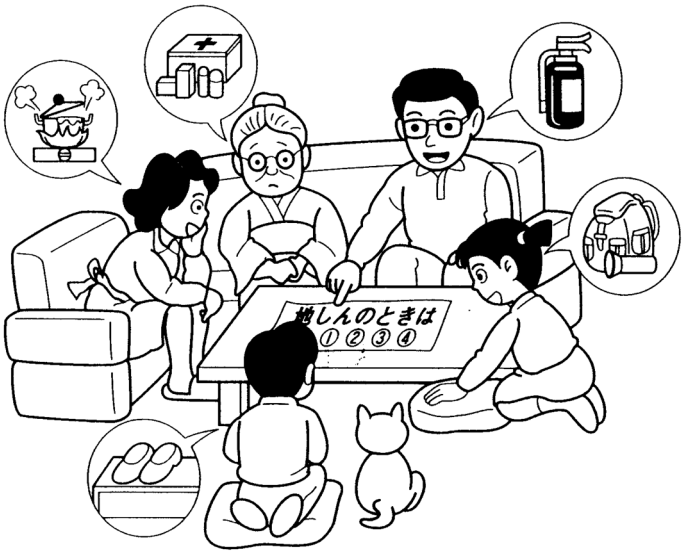
①大声でまわりの人に知らせる。
②１１９番にでんわをかけてもらう。
③火を消すのを手つだう。
④できるだけ早くにげる。



○ もし、大きな地しんがおこったら

①机の下などに、すばやくかくれる。
②火がついているところがあったら、
　すぐに消す。
③ゆれがおさまってから、外へにげる。
④上からおちてくるもの、たおれてくる
　ものに注意する。





※地しんがきた時どうするか、家の人たちと話し合っておきましょう。

○ かんたんなおうきゅうしょち

①すりきず、切りきずをしたとき

きず口を水であらってよごれをおとしきれいなハンカチやガーゼでおさえて血をとめる。





②やけどをしたとき

すぐに水でおよそ10分～15分ひやしつづける。（ひどいときは、ぬれタオルでかるくつつみ病院へいく）



③打ち身、ねんざ、つき指をしたとき

できるだけ早めにいたいところをひやし、なるべく動かさないようにしてから病院へ行って見てもらう。



④目にゴミが入ったとき

・静かに目をつむって涙をたくさん出す。
・きれいな水の中で目をあけてパチパチする。



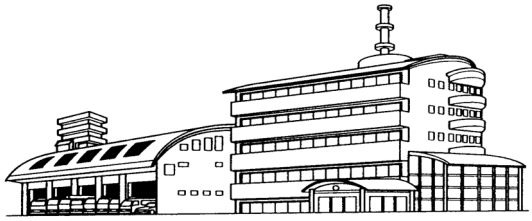
⑤のどに物がつまったとき

・せきを５～６回してみる。
・頭を下にさげて背中をたたいてもらう。



※消ぼうしょでは、みんながこまったときの病院のしょうかいをしています。
（連らく先　電話４５－７７９９）

《見学メモ》





さようなら
また来てね！

太田市立	小学校	年	組
氏　名			